

ASISTの研究活動の概要と シンポジウムのねらい

東京工業大学
像情報工学研究所
社会情報流通基盤研究センター
大山永昭

東工大ソリューション研究機構

- 東工大統合研究院にH22より設置
- 理念
 - 近い将来に実現すべき社会・産業課題を設定し、学内外と広く連携して取り組む組織的研究
 - 参考 ソリューション研究：社会的・経済的価値の創出
 - ディシプリン研究(従来の研究)：学術的価値の創出
- 社会情報流通基盤研究センターの設置目的
 - ICT技術を活用して社会的な課題解決を図るソリューション研究の実施 ⇒ 政策提言を行う意味をこめてセンターの英文名をASIST (Advanced research center for Social Information Science and Technology)と命名

研究活動概要

- 研究課題(～H23)の例
 - 電子行政システムの調達手法の改善 *
 - ⇒ BPMNを使ったBPM手法の研究開発 ⇒ 学内実証へ
 - 情報提供ネットワークシステムのプロトタイプの試作 *
 - ⇒ デモ展示(BPMNの利用)
 - 医療等IDに関する考察
 - ⇒ 基本的な考え方を説明
 - 個人番号カード関連
 - ⇒ JPKIオンライン認証手法を使った各種サービスの紐付け手法の検討(PIN無し認証、保険証、金融等)
 - 顔画像関連(災害時の利用)
 - ⇒ 番号カードに印刷される顔画像を用いた安否確認

医療等IDに関する考察

- 目的
 - 医療等(医療・介護分野)情報の効果的な利活用の実現
 - より適切な医療サービスの提供(質向上)
- 効果の例
 - ① 医療機関連携の実現 ⇒ 個益(直接)
 - ② 医療情報の生涯に渡る個人健康管理システムの実現
⇒ 個益(直接)、公益(副次的)
 - ③ 医学、疫学等の学術および政策立案等に資する
⇒ 公益(直接)、個益(間接)

直接、個益に資する利用法を一次、公益に資する利用法を二次利用と定義
- 医療等情報は、機微な個人情報である
⇒ 二次利用時に医療等IDを使うことはない

個人番号の分類

- 見える番号か？
 - 法令等で第3者が、当人の番号を確認取得することが求められているか
- 広く知られるか？
 - 多くの人を知る可能性があるものは、番号の保護対策を強化する必要がある
- 共通番号制度では、特定個人情報情報を定義し、保護対策を強化
- 医療等IDは、シームレスな一次利用のために導入
 - 個人と医療等サービス提供者の関係
 - 第三者が医療等IDを取得しなければならないサービス提供形態があるか
⇒ 無いと言えるか？

他の個人番号との比較

番号種別	利用範囲(利用機関)	目的外に関する制限	発番に用いた台帳	見える番号か	広く知られるか
住民票コード	行政サービス(住基法別表に記載される機関)	法令で禁止	住民基本台帳	×	×
基礎年金番号	年金業務(全国健康保険協会)	法令で禁止	年金手帳、後に住基ネットと突合	○	×
共通番号	社会保障・税分野	法令で禁止	住民票コード(住基ネット)	○	○
医療等ID(案)	医療・介護分野	法令で禁止	マイナンバー又は健康保険証番号	?	?

シンポジウムのねらい

- 政府の取り組みの紹介
- 導入予定の共通番号制度に伴う環境変化を考える
⇒ 官民連携へ
- 情報システムのより効果的な開発手法を考える ⇒
BPMとBPMNの導入
- 輸出産業に成長する可能性を探る ⇒ 経産省の取
組みを基本として
- 共通番号カードの利活用(案)を紹介

プログラム

第1部 政府における取り組み

- 総務省自治行政局住民制度課長
「番号制度の概要について」
- 経済産業省商務情報政策局情報政策課長
「我が国の電子政府の国際競争力強化に向けて」

第2部 東京工業大学における研究成果

- 像情報工学研究所特任准教授 夏目哲也
「政府におけるBPMの導入・活用に向けて」
- ソリューション研究機構特任准教授 御代川 知加大
「BPMNによる情報提供ネットワークシステムの可視化」
- ソリューション研究機構特任准教授 庭野 栄一
「個人番号関連業務へのBPMN適用」

終わりに

- ASISTは、基盤、電子行政、社会保障分野の課題解決に向けた研究・開発を産官学の連携で実施している
- 研究成果の社会実装に向けた協働をお願い